

## 平成 28 年度 社会福祉法人上伊那福祉協会 事業報告

### 【平成 28 年度 決算概要】

平成 28 年度決算報告書 1 ページ目、資金収支計算書の事業活動収入計(1)、施設整備等収入計(4)、その他の活動による収入計(7)を足した総収入は 4,788,503,671 円、つづいて事業活動支出計(2)、施設整備等支出計(5)、その他の活動支出計(8)を足した総支出 4,765,179,399 円となり、差引当期資金収支差額(11)は 23,324,272 円となりました。資産の増減につきましては、2 ページの事業活動計算書の当期活動増減差額(14)は 101,751,360 円となり、前年の 326,185,085 円とくらべ、224,433,725 円減少しておりますが、内、120,000,000 万円余は今回より来年度支払う予定の賞与を引当金として計上しており、残りにつきましては処遇改善手当の増額分、ご承認いただきました管理職給与の増額分、職員不足の充足が進んだことによる人件費の増大に起因しております。今回の賞与引当金につきましては会計基準が変更となったための処置となります。

1 ページ目、資金収支計算書により当期に資金がいくら残ったのかと申しますと、各施設加算の取得や経費節減に努め、法人では電気料金の大幅引き下げに成功する等施策を進めており、当期資金収支差額 23,324,272 円にその他の活動による収支、積立資産支出 304,207,000 円を足した 327,531,272 円が資金として残すことができました。大規模改修や修繕は前年までの積立金で行うという方針を進めておりますので、昨年も 186,149,890 円の積立資金の取崩を行い、改修や修繕を行っております。大きな改修といたしましては、越百園の従来、特浴があった場所を居室化し、以前デイサービスのあった場所を利用したブラインドの居室位置を変更いたしました。かたくりの里では静養室の快適化、天窓の雨漏りの改修、食事スペースの拡充等を行いました。

### 【平成 28 年度 事業報告】

平澤理事長により「いまこそ職員へ目を向けよう」を合言葉に、3本の柱として、「職員の処遇は削らない」、「職員の就業環境の整備には積極的に投資を行う」、「職員が笑顔で過ごせるためのしっかりとした経営を行う」ことを約束し、賞与は前年と同率 4.3 ヶ月を支給、処遇改善加算は介護福祉士の有資格者で月に 3 万 5 千円、無資格者でも 2 万 5 千円、給与に上乘せして支給しております。私どものこの制度は、週 30 時間以上勤務の介護職員であれば、正規・有期に関係なく、資格により差をつけながら支給を行っております。介護職員以外にも持ち出しではありますが、月に 1 万 2 千円を支給しております。また、平成 29 年度は処遇改善加算が増額されるため、正規職員一般職を中心に更に上乘せを行います。介護ロボットにつきましては積極的に補助金を使いながら整備を進め、特養では各 1 体ずつ配置し、法人全体ではコミュニケーションロボットのペッパーが 1 体、パルロが 7 体、腰の負担軽減用の HAL が 4 体導入済みでございます。今後も平成 30 年の報酬改定にて検討が進む介護ロボット加算に向けて検討を進めるとともに、センサー付き介護ベッドの導入や企業との認証実験を積極的に行ってまいりたいと考えております。

養護老人ホーム南箕輪老人ホームの入居につきましては、現在 70 床の定員に対して 55 床と若干改善をいたしました。今後も行政との対話を進めながら対応してまいりたいと考えております。

今年から打ち出しました中長期計画にもあります「職員を大切に」の一環にはなりますが、前年度は介護ベッドと車椅子の法人一括入札を実施し、今年度はオムツの発注から納品、使用量のデータ取りまで業者へ委託する方式を進めるための入札を行い、紙類等へも展開を行ってまいります。

今年の 4 月には短大卒等総合職 6 名、高校卒等一般職 10 名を採用いたしました。先日も都内の学校を訪ねた際に、当法人の高卒新卒職員の給与は東京都内の法人と比べても非常に高水準とのお言葉をいただきました。今後も広報宣伝戦略に積極的に取り組み、更なるサービスの向上を図りつつ職員

---

の負担を軽減し、雇用の充実を行ってまいります。

今後も上伊那福祉協会は地域の介護の一員として、地域貢献や質の向上など、上伊那地域の介護環境の向上に向けて一層取り組んでまいります。